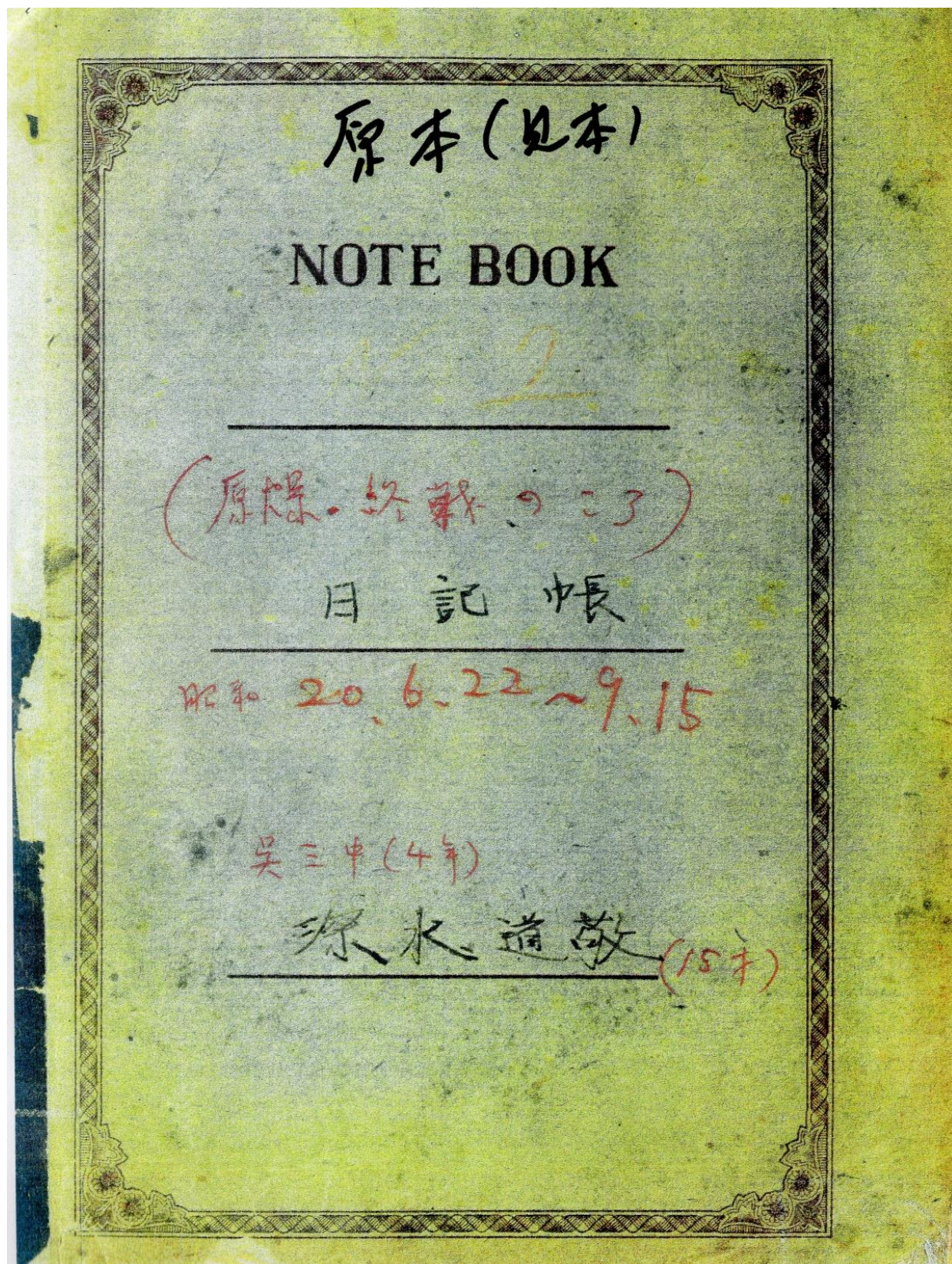




旧制呉三中（現広島県立広高等学校）卒業生の深水道敬さんが1945年8月当時の日記を残されています。当時15歳だった深水さんが子供のころからの習慣として日常を綴られた文字通り「日記」ですが、広島への原子爆弾の投下前後の混乱をその目で見たものとして「日記から核兵器の悲惨さが伝わり、核兵器の廃絶に少しでも役立てば」との思いでこれを公開されました。

【私の終戦日記より】 広島県立呉三中（4年） ^{フカミミチタカ} 深水道敬（15才）

昭和20年 8月6日（月） 晴

4時半起床、一番列車50分遅れで登廠^{※1}。直ちに加藤分隊にて作業。

8時頃、突然北西方で、パッと物凄い青黄色の光が目射た。何か電気でもショートしたのかと思って、材木運搬作業をしていると、ものの2分位経つかたため中に ドドーンと物凄い音がして、サーッと爆風みたいなのが来た。と思ふと、もくもくと 白くて少し桃色の混じってゐる入道雲の凄いのが 次から次へと空へ上がった。

約30分くらい消えなかった。

この頃 ヴィタミンB錠を二つづつ食べさされる。

今日で二日目。 午後タービン翼の曲げ方を教へて貰ふ。 後5時15分 退廠。

汽車がなかなか来ない。 5時50分頃、呉行が出たので呉まで行く。 呉駅でずっと待たされる。 遂に暗くなった。

上りは二つも来た。 とうとう真っ暗になった頃 糸崎発の ゑゅうぎゅう列車が来た。

入口に押し掛けて乗れないので 窓から入れて貰ひ、小屋浦^{※2}に帰ったら 9時だった。

けさ8時頃のあれは、広島へB29 4機が新兵器の爆弾を落としたさうだ。

「殺人光線」といふ者もあるし、「空中爆弾」だとか「ロケット爆弾」だとか意見がまちまちである。 ガスタンクに落ちたとか、機関庫に落ちたとか、とに角 広島だといふ事と、駅が木っ葉だといふ事は確かである。

まだ 広島の方の空が薄赤かった。 大火傷をした者が どんどん此方へ来たさうだ。

勤労奉仕に行つてゐた者も皆火傷をして 肉はむけ、水ぶくれになり、着物はボロボロで歩いて来たさうだ。

父は昼前に 海田市の製鋼所へ行ったきり まだ帰らぬさうだ^{※3}。

^{※1} 呉海軍工廠広航空廠（学徒動員中）

^{※2} 呉市の自宅は、7月2日の空襲で全焼、小屋浦村へ仮住居中

^{※3} 医師として広島へ非常召集、原爆被災者治療に当たる。父は5年後に死去（享年52歳）

8月7日（火） 晴

4時半起床、一番列車が遅れ、二番列車で登廠。加藤分隊で作業 後5時16分の汽車で今まで通り帰れた。 6時20分帰宅。

夕食後 二階で日記をつけた。 父はまだ帰られない。

8月8日（水） 晴

4時42分起床、少し朝寝したが 一番列車が1時間遅れで悠々間に合った。 昼食の間に、警戒、空襲警報発令。 今日、警報5～6回、空襲が2回も鳴った。 遠くに爆音がきこえた。

午後、暗幕組立て後、タービン翼の曲型作業 5時15分退廠、 夕食はホットケーキにマーマレード

< 8 / 7 ラジオ「報道」 > ※⁴

「広島に 6日 朝8時頃 少数機 大型爆弾投下 相当の損害あり 今までになき 新兵器として
目下調査中」

< 8 / 8 ラジオ「報道」 >

「一昨日の 広島空襲により 陸軍中佐 李 錫公 殿下 御戦死 あらせらる」

※⁴ 「ニュース」の時間を「報道」と云った。(注) 8月6日以降 新聞は休刊

8月9日(木) 晴

4時21分起床、一番列車が大幅に遅れたので1時間半遅れの 二番列車で 8時過ぎに登廠。
今日は とても仕事が忙しく、ずっと続けたが帰りには、まだ 残ってゐた。 5時15分 退廠、
帰宅洗面後、直ちに二階で日記をつけ、ラジオの7時の「報道」をきいてから 夕食に降りました。

<今日の ラジオ>

- ・ソ聯、ソ満国境を越へ侵入
8月9日 0時 戦闘状態
ソ聯 は日本に 8月8日 宣戦布告
8月9日 0時より侵入
- ・8月9日早朝 より 三波に分かれ来襲
宮城、青森、山形、新潟の航空基地を爆撃
- ・B29 120機 小型30機 北九州、福岡に来襲

8月11日(土) 晴

帰宅すると、がやがやと いやに騒がしく 兵隊さんも居たので、どうしたのかと思ってきくと、
広島の被災者が収容されてゐるさうだ。 既に死亡した者は むしろに包んで 数人 放ってあつた。
明日 休みで、明後日 深夜業も始まるので ゆっくり寝て、本も読まれると思って いそいそ帰ったのに、途端にがっかりした。

8月12日(日) 晴

久しぶりの 休業ゆえ ゆっくりしてゐたが、収容所の怪我人の被害状況は見るに忍びず。 誠に
気の毒千萬。 されども その臭さには ほとんど閉口した。
午後 海に浸って体を干してゐると、途端に警報発令。特殊爆弾に注意の警報もあり、急ぎ支度す。
本日は、午前も午後も ひっきりなしに情報が入って、のんきにしてゐる暇など、とんでもない。
隣の収容所は、薬を塗ったくった 裸の人ばかり。男か女かもわからない。 暑さで、目からうじ虫
が湧いている人もある。 「兵隊さん、 痛いよう、 暑いよう」といふ声が 一晩中きこえて眠
れない。

8月13日(月) 晴

今晚より 深夜勤ゆえ、朝は おそくまで寝てゐた。
然し、又も 警報で起こされた。 江田島や大竹へ投弾したので、やむを得ず 支度した。

広島の罹災者収容所は「暁第六四一四〇部隊 臨時野戦病院」と書いてあった。
死体が たまるまで転がして 一杯になって 臭くなってから 大八車で運ぶので、その臭さと言
ったら どうも叶はない。 どこかへ移転せねば どうもならん。
夜、頭がぼうっとして 行く気がせんが、第1回の深夜勤ゆえ、後5時19分の列車で行く。
夜、少し仕事をして昼食後は休憩。 外で山口と ぐうぐう寝てやった。 組長は良い人で、一つも
怒らずに 笑ってゐた。

8月14日(火) 晴

朝5時45分 退廠。 どうも体がだるい。まだ体がなれていないからか、予想以上にきつかった。
帰って食後 ぐっすり眠った。 午後 起きたが 暑くて仲々眠れやしない。 これでは、それ
こそ睡眠不足で病気になると心配しながら 夕食を食べて 後5時19分の汽車で行った。
今日も 定時間(前0時)から ぐうぐう寝た。

8月15日(水) 晴

前5時45分 退廠。 帰ると母が「今日は昼から古今未曾有の放送があるから、国民は皆きけ」と
ラジオが言ったと言うので、 本を読みながら、昼まで寝た。 正午に起きて、父と母と ラジオの
前へ行くと、「国民一同起立」と言ったので 立った。

「君が代」の演奏ありて、その後
畏くも 天皇陛下 御自ら 詔書(戦争講和)を御下し 御読みになられた。
次いで「内閣告諭」などありて、それによると、帝国は、米・英。ソ・支の四ヶ国に対し、先頃ポ
ツダム会談に於ける 米英ソの 帝国に対する 降伏勧告条件等に、8月14日 之を受諾した由
である。

開戦以来 3年8ヶ月と一週間である。

条件内容は、大体日本は、北海道、本州、四国、九州以外は、ソ・支へ還付する事、直ちに全軍武
装解除する事、兵器工場廃止等である。

そうなった主な理由は、「原子爆弾」とソ聯の参戦とが 一大原因をなしてゐる。

遂に 帝国は、やむを得ず

8月14日、条件を受諾した。

天皇陛下御自ら 御判断 遊ばされ、詔書を賜はった。 誠におそれ多い極みである。

次いで 午後3時の「報道」で

「阿南陸相 官邸で 自刃」の発表があった。

4時半に駅へ行くと、すぐ汽車が来たので 登廠。

石木、河越、平田、原、黒兼、武田、藤井 と 久しぶりに会って話した。 皆、残念がってゐた。

今晚は、一つも仕事をせず、ずっと寝たり、歩き廻ったりした。

8月16日(木) 晴

朝5時50分 退廠。 正午の「報道」では、米陸軍が対日戦斗停止を命令したさうだ。
夕方5時10分汽車で登廠、 しても何にもならないのに 廠長が駄目だから 依然 作業続行だ。
呉工廠は15日に 女子挺身隊、学徒隊は帰郷許可。動員解除の由。広工廠は何の音沙汰もない。

8月17日(金) 晴

朝5時50分 退廠。 姉※は30日まで、休みで、家の仕事をやってゐる。 午後 3時20分発で今日も登廠。今日も午前1回 午後1回 タービン翼の作業をした。

<今日のラヂオから>

・新内閣組閣(8月17日)

首相(大勲位 陸軍大将) 東久邇宮稔彦王殿下

海相 米内光政(留任) 外相 重光葵 ほか

※ 姉は県立呉第一高女5年生(学徒動員)

8月18日(土) 曇後晴

朝5時50分 退廠。 帰宅後 本を読みつつ寝た。昼、天應より 海路 南瓜を売りに来たので50円ばかり買った。 数へたら29個もあった。

後5時19分発で登廠すると「学徒は動員解除になったので、すぐに帰っても良し」と当直係員が言ったので、すぐ 6時45分の汽車で帰る。 昼に買った南瓜を洋服ダンスに入れ、海岸で涼んだ。

<今日の新聞・ラヂオから>

・廣廠動員学徒 動員解除

・東久邇宮内閣成立(8月17日 後1時)

・軍令部次長 大西瀧次郎 海軍中将 自刃(官邸)

・停戦協定調印地はマニラで

8月19日(日) 晴

7時起床 井上の家へ行き、学校の事をきく。明日 8時登校だそうだ。

朝食後 シロップを飲み小説を読む。 昼食は南瓜。 夕食後ラヂオをきく。

「畏くも天皇陛下におかせられましては、本日 1. 燈火管制解除、2. 街路の明光と3. 娯楽機関の復活、4. 明朗生活の復興の大御心を垂れ賜うた」と「報道」で伝えた。

8月20日(月) 晴

5時50分起床、ゆっくり支度して、井上と6時48分で登校。

1. 神社参拝、詔書奉読、校長訓話

2. 連絡網決定

終礼後 12時下校、帰りに末広館の前でレモン水3杯飲み、シャツのカラー2枚と靴の敷皮等を買ひ、電車で阿賀まで行く。安中家で弁当を食べ、新聞や本を読み ぶだうを御馳走になって 3時半の汽車で帰宅。

内務省発令によると、本20日正午より燈火管制解除とのこと。

早速、電燈の黒い暗幕を取り外した。久しぶりに明るい電燈が復活した。何とまぶしい事か。

これで本当に 戦争が終わったのだ。

8月21日（火） 晴

今日より26日まで休みなので 7時起床ゆっくりだ。

洗面後 朝食まで薪割り 朝食は南瓜飯。

9時より配給所へ米と大豆と小麦をとりに行った。

とても重くて、途中でひと休み、

昼食後、明日が満月なので、一家総出で海辺で貝掘りをする。

(以下略)

【注】旧仮名遣いのまま